

# IMF、世界経済見通しを上方修正

## ポイント① 世界経済、景気後退は回避へ

1月31日（日本時間）、IMF（国際通貨基金）は世界経済見通しを改定しました。これによれば、2023年の世界の実質GDP（国内総生産）成長率は2.9%と、2022年10月時点の見通しから0.2ポイント上方修正されました。2024年は、小幅に下方修正されたものの、成長率は3.1%に持ち直すものとしています。IMFは2023年の上方修正の主因を、堅調な労働市場、安定した家計消費と企業投資、欧州のエネルギー危機への適応力、中国での経済活動の再開、インフレ圧力の沈静化などを挙げしており、景気後退は回避される見通しとなっています。

## ポイント② 中国やインドが経済成長をけん引

先進国の2023年の実質GDP成長率は1.2%と、前年の2.7%から大きく減速する見通しです。主に、これまでの中央銀行による利上げやエネルギー価格の上昇などが成長を妨げると考えられます。一方、新興・発展途上国では、2023年は4.0%と前年の3.9%を上回る成長が予想されています。その中でも中国とインドの成長率が堅調で、2023年の世界の経済成長の半分を占めると予想されています。

## ポイント③ ダウンサイドリスクは依然高い

インフレ見通しは、先進国を中心に景気減速の影響を受け、2022年の8.8%から2023年には6.6%、2024年には4.3%になると予想されています。このように世界経済はソフトランディング（景気の軟着陸）を見込んでいますが、一方で、中国のコロナ感染の再拡大、ウクライナ情勢の深刻化や、これまでの金融引き締めを起因とした債務危機など、ダウンサイドリスクは依然として高い状況が続いています。

## 国・地域別実質GDP成長率見通し

(前年比、%)

	2022	2023	2024
世界	3.4	2.9 (0.2)	3.1 (-0.1)
先進国	2.7	1.2 (0.1)	1.4 (-0.2)
米国	2.0	1.4 (0.4)	1.0 (-0.2)
ユーロ圏	3.5	0.7 (0.2)	1.6 (-0.2)
日本	1.4	1.8 (0.2)	0.9 (-0.4)
新興・発展途上国	3.9	4.0 (0.3)	4.2 (-0.1)
中国	3.0	5.2 (0.8)	4.5 (0.0)
インド	6.8	6.1 (0.0)	6.8 (0.0)

(注) IMFによる予測

(注) ( )内は2022年10月時点見通しからの修正幅、ポイント。

(出所) IMF「World Economic Outlook Update, January 2023 (https://www.imf.org/)」より野村アセットマネジメント作成

## 消費者物価インフレ率の見通し

(前年比、%)

	2022	2023	2024
世界	8.8	6.6 (0.1)	4.3 (0.2)
先進国	7.3	4.6 (0.2)	2.6 (0.2)
新興・発展途上国	9.9	8.1 (0.0)	5.5 (0.2)

(注、出所) 上表と同じ

### 重要イベント

- 2月1日 ユーロ圏消費者物価指数（1月）
- 2月2日 ユーロ圏金融政策発表
- 2月14日 米消費者物価指数（1月）

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。